**第５回大阪府学校教育審議会工業教育部会（概要）**

日　　時：令和４年10月５日（水）午前10時00分～11時30分

場　　所：委員会議室（大阪府庁別館６階）

出席委員：川田裕部会長、丸岡俊之委員、北野優子委員

審議内容等：

(1)審議等

「第５回大阪府学校教育審議会　工業教育部会　資料１」に基づき、事務局から説明。

その後、以下のとおり審議が行われた。

川田部会長：それでは、事務局の説明に対して、それぞれの委員の専門的な見地からのご意見をいただければというふうに思っております。10分以内で1人ずつご発言をお願いしたいと思います。まず丸岡委員からよろしくお願いします。

丸岡委員：詳細な情報の資料をご提供いただきまして、よくわかりました。工業系高校の魅力をどう発信するかということについて、何点か私の考えていることをお話させていただきます。

資料では特には触れておられなかったですが、それぞれの学校に、ホームページを開いておられると思います。そのホームページの充実が大変重要ではないかと思っております。ただ、ホームページを作成するにあたっては、その学校の基本的なコンセプトというか、その学校の生徒育成像や、どういう特色、魅力を自分の学校が持っているのかということを、モットーやキャッチコピー等の端的な言葉で表現できるように、しっかり整理をしていく必要があると思います。ウチの学校は中学生やその保護者に何を訴えたいのか、というコンセプトをしっかり作っていただいた上で、ホームページを再構築されてはどうかと思っております。工業系高校のホームページはいくつか見せていただいたのですが、正直に申し上げて、知りたい情報にたどり着くまでにかなり深掘りしないといけないというところが、目につきました。それほどお金もかけないで作成されていると思いますので無理もないのですが、企業ではホームページに閲覧者が滞在している時間が平均１分半くらいにはしたい、できれば２分見てほしいと考えているそうです。工業系高校のホームページにはどのくらい滞在されているのかということを、ぜひ一度確認していただき、参考にしていただきたいと思います。トップページのデザインは是非拘っていただきたい。どんな情報があるのか見て取れるようになると、この学校の教育内容はどんなことをやっているのだろう、卒業したらどのような進路があるのだろうと見てみたくなると思います。またQAも設けていただき、知りたい情報に対する答えがしっかり用意されていることが必要かと思います。大学等洗練されたホームページを作っておられる学校もあると思いますので、ぜひ参考にしていただきたいです。このように、周知できるホームページを作るためには、予算が必要になると思います。ぜひ予算について教育委員会からバックアップしていただけるとありがたいと思います。これは要望として挙げさせていただきます。

次に、企業との連携ですが有効であると思っております。企業と協力して出前授業をやっている、イベントをやっている等、そういったことを発信すればいいと思います。発信はホームページに掲載するという方法もあるし、リーフレットでも良い。またYouTubeを使うことも考えられます。発信することによって工業系高校の中の取組みだけで終わるのではなく、工業系高校が素晴らしい企業に繋がっているということを伝えていくことがイメージの向上に有効になると思いますので、これはぜひ成功させていただけたらと思います。今日ご紹介いただいたイオン等の会場をお借りしながら、またそれぞれの地方自治体や商工関係と連携された取り組みというのは素晴らしいと思いました。

次に、以前の審議でもご意見がありましたが、工業系高校の卒業生がその後どんな人生を歩んだのか、といういわゆるロールモデルをお示しいただくことが大事です。卒業してすぐ企業に就職した方、また大学等を経て活躍されている方等色々なパターンが男女問わずあると思いますので、どのようにご活躍されているのかということを、ぜひご紹介いただきたいと思います。例えば、私の大学の学生の教育実習を受け入れていただいている学校に訪問させていただきましたが、主にデザインを教育されている学校なのですけれども、廊下を歩いておりますと、学校の卒業生の写真が貼ってありました。それは有名な自動車メーカーの車のボディーの設計を担当している方でとても革新的なデザインで、凄く人気が上がっている車なのですけれども、こういった発信が、まさにロールモデルの発信だと思いました。工業系高校にはこういった卒業生という財産がせっかくありますので、発信をしていただきたいと思います。他にも、50代で大手メーカーの役員になっていらっしゃる方もたくさんお聞きしています。そういった方もご苦労はあったと思うのですが、工業系高校で学んだことや経験したことが今に繋がっているとお話しいただけるのであれば、それが大きなPRに繋がっていくのではないかなと考えます。

次に、先日テレビで、朝ドラで東大阪を舞台としたネジ工場の社長さん役の俳優さんがが、あるモノづくりの工場を見学するシーンが映っていました。そこの工場の社長さんも、そこで仕事をされている従業員の方も、作業着を着ておられるのですが、非常にスマートでかっこよかったです。こんな服装で仕事されているんだと驚きました。設備についても、５軸のマシニングセンタが紹介されていましたが、その紹介を見て、清潔感と洗練されたイメージを持ちました。こういったこともご参考に改善できるところはお願いできればと思います。

次に、工業系高校への体験入学ですが、特に在校生と共にアイデアを出しながら、中学生とか保護者の方に直接もの作りをしていただくという体験は深くその子どもや保護者の心に入っていくのではないでしょうか。その上で、保護者に対して将来に対する進路保障の面をしっかりと訴えていくことで、工業系高校への志願をお考えいただくことに繋がるのではと思っております。

大事なことは、中学生の目線、また保護者の目線というところをしっかり見据えながら戦略を作っていくことだと思います。工業系高校へ進学するメリットを改めて周知することは非常に良いと思いますし、周知に先ずは紙媒体を使うということも良いと思いますので、子どもや保護者の手元にどう届くかというところまで考えて実施していただきたいと思います。いかにその届くようにするかという工夫が課題ではあろうと思いますけども、ぜひそのあたりも含めて、いろんな手法をとりながら、イメージ戦略といいますか、広報を進めて、いけたらいいかと思っております。長くなりましたが以上でございます。

川田部会長：色々と重要な点について述べていただいたと思っております。ご発言にあったように、私もホームページがかなり重要だと考えております。私立の多くの学校はホームページにお金かけています。それに対して公立では資金的な面で制約があるのではと思います。ホームページを良くするのは非常に重要だと思います。またホームページは更新回数も大事で、1年に1回だけということであれば、アクセスは増えないと思います。例えば運動部が競技会で勝った、対外のレースで頑張ったとかそういった情報もしっかり更新していくことが重要じゃないかと思います。各高校のアクセス回数を比較してもいいんじゃないでしょうか。もう一つ重要な点として、各工業系高校のホームページのフォーマットは出来るだけ統一する方が良いと考えます。その中で必ず見やすい同じところに就職実績や進学実績のタブがあるというふうにすれば、もっと実績が周知されていくと思います。企業では、必要な情報を伝えるために、ホームページに１分半は滞在してもらいたいと考えているようです。探している情報が見つけにくいということであればすぐ他のホームページに移ってしまいますので、少しでも長く滞在もらうためにも見やすさというのは非常に重要だと思います。見やすいホームページを作るにあたっては、府教育庁が一括して予算を取って、各高校に配分すれば、スケールメリットも出ると思います。

また、女子を呼び込むということでは、中学校や高校でも、最近は制服を非常に重視していて、見本をいくつか出して生徒に投票で選んでもらうなど、工夫しているようです。女子生徒はこういった部分に特に敏感だと思うので、考えていただければと思います。以上でございます。

この件につきまして何かご意見はございますか。それでは北野委員、お願いします。

北野委員：はい。今日はこのとおり、オンラインから失礼いたします。皆さんのお手元の資料の16ページの、今までの魅力発信の取り組みに記載してありましたアンケートのところですが、工科高校や工業高校に入学したいというところが、どちらかといえば入学したい、とても入学したい、これらを合わせて30％ぐらい入学を検討していただける人たちがいるということに、今までの皆さんの取り組みがすごく伝わっているのかなとまず感じました。もしこの30％の人材に、入学が期待できるのであれば、令和4年度の工業系高校の志願割合は全体の3.2％しかなかったと思うので、それに比べてすごく未来は明るいかなと私は感じました。

丸岡先生からお話がありましたとおり、ホームページの充実はすごく大切なポイントだと思います。さらに、パソコンではなくて、スマホから見る方が現在8割を超えているぐらいだと思いますので、スマホへの対応というのは、ぜひ至急取り組んでいただきたい部分です。

今まで企業支援をしている中で、よく採用できないということを企業様からご相談を承るんですけれども、制度面や設備の環境整備等、ハードとソフトを整理してから初めて採用できないということを考えてみたらいかがでしょうかとお話をしております。これは高校の進路選択についても同じかなと思っておりまして、結局保護者の方々が子供を通わせたいかどうか、というポイントがすごく重要なのかと思いますので、こちらについてもお考えいただければと思っております。特に学校来場型でイベントをやりたいと先ほどご提案をいただいておりますので、ハード面とソフト面を整理した上で、受け入れを準備していただけたらなと考えております。

また、広報活動について、資料の5ページの②番で工科高校の魅力化推進プロジェクトが平成28年度に行われていると書かれております。こちらのホームページを拝見させていただいたのですが、ものすごく綺麗に作られていて、動画もやはりプロが作ったものなんだなっていうところがわかりました。このページは現在どちらで運用がされているのかというのは、後ほど事務局の方によろしければお伺いできればと思っております。ここをもっと何か活用をして、工業系高校全体のPRができないかなというふうに思いました。

メディアに関しては、先ほどリーフレットを作って生徒や教員に直接手渡しができればというお話もありましたが、まず紙媒体での周知広報やビデオでの周知広報を行うことで、最大のポイントである口コミを伸ばすことに繋げられればいいと思いました。加えてイベントについては、実施した内容をもっと大々的にPRしたらいかがでしょうかと思います。

今まで周知広報は各学校でそれぞれやってきたと思いますが、そこを教育庁主導で、全校のPRをしていくことができたら、もっと構造的に知っていただく機会が増えるのではないかなと思います。

また、魅力発信や広報戦略に関しては、できれば専門家の方に入っていただくとか、各学校で広報担当専任の方を置いていただく等ができればもっと効果的に周知広報ができるのかなというふうにも考えております。なかなか先生も日々のことでお忙しいと思うので、教育内容をお伝えするのはやはり先生でないと難しいと思うんですけれども、周知広報に関しては先生にしかできないことではないと思うので、外部人材を招聘する等、何か構造的にできたらなというふうに思っております。ありがとうございます。

川田部会長：どうもありがとうございました。今の件につきまして、丸岡先生から何かご意見等ございましたらお願いします。

丸岡委員：ありがとうございます。スマホビュー、これは大事なところで、見ていただける機会を増やすというのは、必要な考え方だと思います。

それから、BeProfessionalのところに触れていただきました。これにつきましては私も学校に居りましたときに作成いただいたわけですけれども、まずこれがどの程度ご覧いただけているかということ。せっかくここまで手間をかけてお作りいただいたものを、もっと有効活用できないかというのは、大事な視点だと思います。作って終わりではなくて、それをベースにさらに充実していく必要があると思います。イベントとか、皆さん本当に力を入れて取り組んでいただいているんですが、これをPRに繋ぐということが大事なことで、動画もそうですが、せっかくやったことなので、色々な媒体を使って、やっていることを広く周知していくこと。これを上手にやることによって、広がりが何倍にもなっていくと思いますので、よろしくお願いしたいと思います。以上でございます。

川田部会長：どうもありがとうございました。北野委員、丸岡委員からもありましたが、スマホを使ってInstagram、Facebookなどから情報を取得する若い方の割合がずいぶん増えていると思います。従ってこれには何らかの対応はやはり必要です。

次に、企業に協力を得る場合で少しわからない点があります。例えば工業系高校において企業の支援でイベントをやりたいというときに、回数などについても一から十まで全て聞いてくれるほど力は入れてくれないと思うので、何社か協力を得ないといけないと思うのですが、企業の協力の意向というのはどうでしょうか。

北野委員：そうですね。イベントの運営自体を外注するのが一番早いのかもしれません。そこが主となってこういうことをやりたいというコンセプトが決まってきた段階で、各社さんに協力依頼をかけていけば、ご協力は得られるのかなと思います。

川田部会長：ものづくりイベントについては、イオンモール等商業施設でやるものと、各高校でやるものがありましたけれども、商業施設の方は、企業も比較的協力しやすいでしょうが、各高校でやるイベントではマンパワーの面からも多くは期待できない可能性もあるので、OBのいる企業などからの支援も必要と思います。

北野委員：そうですね。確かに学校でやるとなれば、イオンモール等の一角で提供しているプログラムよりも多く提供する必要があるのかなと思うので、例えば個々の企業さんとコラボした部屋を一つ作って、協力いただける企業さんに順番に体験教室を開催していただく等の形でプログラムを組んでみたらいかがでしょうか。

川田部会長：どうもありがとうございました。それでは、ここで本日欠席されております伊藤委員と中野委員から事前にいただいているご意見を紹介させていただきます。

まず伊藤委員ですけれども、今回事務局が考えている今後の魅力発信の取り組みについては、課題と正対した対応であり、正攻法でいい。就職実績や進学実績を改めて周知することは非常に重要。中学生からしても、工業系高校に進学することで、どのような未来が待っているのかがわからない状態であれば進学する気持ちになれない。周知する内容については、良い企業にも就職できる、いろんな大学にも進学できる。指定校求人や推薦入試といった制度が使えるというメリットがある、ということをいかにPRするかに尽きる。何れにしろ、イキイキと働いているロールモデルを示す。加えて、PRにおいては受動的な方にも情報が届くような手法にしてほしい。

次に、もの作りフェスティバルは良い案。行事の中で得られる中学生と工業系高校の繋がりが貴重である。

次に、中学生にとって高校受験は人生の選択なので、その選択肢ができるだけ幅広くなるよう色々な種類の府立高校があることを知っておいてほしい。そのために、教育庁は、中学校教員が生徒に説明しやすくなるようなサポートをすべき。それが工業系高校のPRという枠を超えて、中学生の正しい進路選択に繋がる。

次に、女性が興味を引くような教育内容にするということも検討してはどうか。デザイン科、材料化学科、工芸科、電子情報科等。

最後に、東洋紡株式会社における女性活躍の取り組みについて。生産工場においても女性活躍は重要と考えている。因みに、総合職採用は女性で40％を採用することを目標にしており、ここ数年近い数字の採用となっている一方、工場の生産技術職は事務所スタッフを除きほぼ男性が占めている。男女どちらも活躍している職場の方が、雰囲気が良く、そのような職場に勤務している社員は会社への定着度も高くなっているのでそのような方向性をめざしたい。なお、この春から作業着を新しくして、男女共通のデザインとした。以上でございます。

次に、中野委員の方からのご意見です。まず、工業系高校の魅力発信について。工業系高校を志願してもらうための参考として、病院の理学・作業療法士に職業選択のきっかけについてヒアリングしたところ次の内容であったということです。人との関係の仕事に就きたかったため、作業療法士を選んだ。また世の中に貢献したかった。作業療法士は国家試験で仕事の内容が明確だった。就きたい仕事について考えたのは高校二、三年生のとき。保護者に相談しながら考えた。ここから読み取れることは、世の中への貢献という点では、ものづくり企業に入ることも十分な選択肢であるのに、選ばれていないこと。それから中学生段階で将来の進路を決め切るのは、やはり難しいということ。保護者への周知も重要であること。何よりも卒業後の進路をわかりやすくすること。この辺りを改善していく必要がある。つまり問題は、工業系高校に入学することと将来の仕事を結びつけて理解できていないことではないか。就職や資格試験において有利であることを強調しても、何が有利なのか、実際会社に入ってどのような仕事ができるのか、という部分が中学生やその保護者に伝わっていない。ここは企業の担当者や工業系高校のOBの声によってPRすることで、しっかりと伝えていく必要がある。また、出前授業のアンケートを見ると、工業系高校に入学して卒業したら技術者として企業で働いてみたい、出前授業を受けてもの作りを支える仕事がたくさんあることがわかってとてもよかった、というとても前向きな感想をもらっている。このことから、中学生に直接PRできる出前授業という機会はさらに増やしていく必要がある。

それから、企業からの意見について。企業では高専に注目していると聞いたことがある。十数年、工業系高校から採用していない企業の担当者からは、工業系高校ではどのような人材を育てようとしているのかと聞かれた。理解いただけていないようであった。このことから、もっと企業の期待に応えられる専門性を持った人材を育てるため、例えば電気系であれば1年生から全員に第二種電気工事士試験を受けてもらい、２年生からは希望者に第一種電気工事士試験や電験三種に取り組ませてはどうかと思う。このようなご意見でございました。

概ねこれまでの議論と近い意見ではないかなと思いますが、東洋紡の事例は特に参考になるのではないでしょうか。

それでは、皆さんから一通りご意見いただきましたので、私から意見を言わせていただきたいと思います。

まず、志願者を増やすということは学校に関して言えば死活問題です。これはどこの中学、高校でも重視しています。例えば、常翔学園中学校や高校では、入試関係のスタッフの中に外回り専門のスタッフを数名置いて、その者たちが学習塾回りや進学説明会等のイベントを地道に回っています。その中で、他校の情報や志願者の動向等がわかってくるので、それをまた次の学習塾回りやイベントでのプレゼンに反映しております。

次に、広報に関して。説明を受けて感じたことは、工業系高校のメリットを強調したリーフレットはぜひ作っていただきたいと思います。これは、できるだけ現在、保護者や中学校教員が持っている固定概念を覆せるようなエビデンスをつけることを意識されるといいと思います。例えば、未だに工業系高校の生徒はやんちゃだというイメージがあるというアンケート結果があります。実際は非常に礼儀正しくて真面目な生徒が多いにもかかわらず、このようなイメージを払拭しきれていません。そのため、どういう客観的なエビデンスを使って、正しいイメージを訴えるかということを、頭を使いながら実行する必要があると思います。またリーフレットのターゲットとしては、中学生とその保護者、中学校教員がいるわけですが、それぞれ望むものが少しずつ違うのではないかと思います。中学生は、工業系高校に行ったら自分のやりたいことができるのか、保護者は自分の大事な子どもを工業系高校に入学させたときに将来明るい展望を得られるのかどうか、中学校教員は大事に育てた生徒をしっかり教育してくれるのかどうか、この辺りをうまく包括するような形で作っていただけたらと思います。これはホームページの再構築にも言えることだと思います。

次に、女子生徒がいることを初めて知ったという声もありましたので、ぜひ女子生徒の卒業後の活躍について、ロールモデルを出来るだけ多く発信していただきたい。就職して活躍している方、大学進学を経て活躍している方がどちらもおられると思いますので、そこを強調していただければ有り難いです。

次に、大学進学実績、これは全く知られていないということが浮き彫りになったので、是非強調して広報しなければいけない部分です。企業の就職実績の広報についても詳細に載せる必要があると考えます。

次に、どうも古い機器だけでやっているというイメージもあるようですが、先日今宮工科高校を見せていただいた際には新しい機器も多数入っていることがわかりましたので、こういった新しい機器を使った新しい実験実習も行っているということも、訴えかけるポイントだと思います。

次に、これからの時代は小学校から情報の授業が始まり、中学校でも学習することから、関心が高まってくると思います。そのためITに関する教育もできるだけ新しいものにしてITに強い高校というイメージを作り、そういった教育にも興味がある生徒に来て頂くような学校にする必要があると思います。

次に、ものづくりフェスティバルについて。私は大工大で同種の取組みを2010年頃に始めました。1日だけのイベントとして、初めは子供と保護者で1000人程度の参加者だったものが、コロナ前には7000人も来るようになりました。これはどのようにしたのかと言うと、関係の部長が、大阪の各区の小学校の校長会で時間をもらって、パンフレットを説明して渡しました。それにより、確実に生徒や保護者に情報が入るようになりました。その結果、体験した保護者の方々がSNSで口コミとして広げてくれるようになり、2019年にはこれ以上増やせないというところまで来ました。また、日程の設定も重要です。大工大では、お盆休みから31日までの間に設定していました。そうすると、小学生が夏休みの自由研究に間に合うということで、沢山来てくれました。大工大の教員が自分の子どもが通っている小学校に見学に行ったところ、このイベントで作ったものが夏休みの宿題の成果として沢山出ていたそうです。テーマは少し高級な予約制イベントと誰でもいくつでもできる自由なイベントに分けて行いました。工科高校では、小学生相手に既にイオンモール等で始めているイベントがありますので、高校で開催する分は即効的な効果を狙って、主に中学生をターゲットとしたもう少し高度なテーマを選んでやったらいいと思います。大工大のイベント資料で、90くらいのテーマを出しておりますので、この中から使えるものを選んで考えて頂ければと思います。

次に、今後技術者にとって工業系のIT技術は非常に重要になると思います。一方、不安な点もあります。それは、工業系のIT技術を教える教員の数が不足するのではないか、教員の数を増やすための研修が十分に行えるのかということです。今後のデジタル技術に対応できるような卒業生を出すというのは工業系高校の大きなアピールポイントになるので、マンパワー面とスキル面をどうやって整備していくのかというのは課題だと思います。以上でございます。

それでは、ここからはこれまでの皆様の意見を踏まえた上で、自由にご発言いただきたいと思っております。なお、次回の第６回は、学校教育審議会に報告する内容の審議ですので、報告内容の案に反映させるご意見については、今回が最後となります。ですので、今回の議題に限らず、これまでの議論を踏まえてご意見がいただければと思います。いかがでしょうか。

丸岡委員：前回の第4回のときに教育内容について議論をしたわけですけれども、その際、工業系高校の、いわゆる大学進学のテーマについて多くお話をされたと思います。もちろん、工業系高校のイメージを、これまでの就職一辺倒のものから変えていく、進路の袋小路を作らないということは、私は大事なことであるしそれをしっかりPRするということはいいことであると思っています。

ただ一方で、進学一辺倒で、この路線を引っ張っていくことが、必ずしも工業系高校にとって全てプラスになるかというと、なかなかそうはいかないところもあると思います。といいますのは、やはり現状の工業系高校は、立地条件、地域性、周辺の高校の状況、歴史的な経緯等もあると思います。加えて、それぞれの高校の進路実績、いわゆる大学進学の実績というところを考えていきますと、必ずしも一斉に同じような取り組みを行うということが難しい面もあるといったことで、やはりそれぞれの学校の実情や特色をしっかり踏まえた上で、カリキュラムを考えていただくべきではないかと思います。

つまり、進路の袋小路、これは脱却していくという意識をしっかりと押さえていただきながら、それぞれの学校の実情も踏まえて考えていただければありがたいです。

次に、教育内容については、先日の資料の中にありました、例えば先進的にやっておられるVRですね。これはまだまだこれからの世界であるということですし、また通信の環境整備も含めて課題は多いかと思います。けれども、工業系高校~~等~~の技術教育については大きな転換時期にも来ています。これまでやってきた教育内容に加えて新しい分野の教育内容を取り入れることも大切と思います。そういったときは、思い切ったチャレンジができるときでもあると思いますので、こういった仮想空間でものづくりをする、というような取り組みも未来志向で挑戦していけばいいのではと思っております。

次に、特に今回の審議のテーマではなかったのですが、志願者が減少しているということは当然入学者選抜制度と大きく関係するわけで、府教育庁で検討なされるものと思いますけれども、工業系高校については入試の実施時期の問題と入試の内容ということが検討課題になると思います。単に時期を前期に持ってくるというだけで解決することは、難しいのではないかと思っております。時期のことも検討をしますけれども、同時に選抜の内容を検討していただきたい。例えば、ものづくりが好きな子供たちが推薦入試を受けられるといった選抜制度についてもやはり検討が必要ではないでしょうか。

次に、本日のテーマである広報について。一つ言い忘れておりましたのが、リーフレットをお作りいただくことは非常にいいと思うのですが、部会長の話にもあったように、工業系高校全体のメリット、特色をPRする部分と、それぞれの学校の特色をPRするものと、両方を設けていただければと思います。それぞれの学校が悩んで、PRについて考えていく部分も残しておくことで、それぞれの学校の主体性が生まれると思いますので、ぜひそのあたりもご検討いただきたい。以上でございます。

川田部会長：どうもありがとうございました。自動車メーカーの製品開発では既に等身大ぐらいの大きい画面に3DCADの図を示して、データをどう変えたらどのように車のバランスが変化するのかというようなことが即座にわかるような開発者会議を各国の拠点を繋いでグローバルで行っているようです。そういった流れも踏まえて、ぜひとも新しい技術を取り入れた夢のある未来志向の教育もやっていくことが重要です。先ほど言われたように、2DCADから3DCADになったら相当インプットも大変になるのですが、それをやることで、デザインの変更影響把握や3Dプリンタでの形状や確認、CAEシミュレーション等もできるようになるので、そういう広い世界についての入り口を工業系高校で教えていくことが大事だと思います。

次に、先ほど入学者選抜の制度についてご意見がありましたけれども、聞いていた中で思ったことは、やはりデザイン系の専門学科のように、一般選抜より前に工業系高校の選抜をやったらどうかということです。これについては、今までの経緯があって簡単ではないと思いますが、ぜひご検討いただきたい。

次に、広報について。いかに中学校の教員に知ってもらうかというのが非常に重要なので、先ほどの出前授業や中学校教員対象の見学会等拡充することに加えて、新任の中学校教員の初任者研修で必ず実業系高校を見ていただくということも検討していただきたい。そうすれば、自動的に工業系高校について知っている中学校教員が増えていくのではないでしょうか。以上でございます。

北野委員は何かご意見ございますか。

北野委員：一点だけ資料について事務局の方にご質問があります。23ページの企業連携のところなのですが、大阪府内にある企業さんとどんなふうに連携していくか、想定していることがあれば教えていただきたいなと思っております。

府教育庁：企業連携につきましては、今のところは各学校が繋がりを持っている企業にテーマを依頼しに行くことが軸になるなと思っているのですが、それ以外の新たな繋がりも模索して、幅広に実施していきたいと考えております。そのために、アプローチ先や手法も含めて、検討を進めさせていただきます。例えば、府庁内の商工労働部には公民連携戦略デスクという企業連携をマッチングする部署もございますので、そちらと連携しながら、北野先生におっしゃっていただいたように、できれば大阪府内の企業との連携も増やしていきたいなと思っているところです。

北野委員：工業系高校で学んでいただいた方が、大阪府内の企業の業務に従事していただけるというのが、一番理論的な形かと思いますので、ぜひご検討いただければと思います。

また、広報については、先ほど川田先生のいらっしゃる常翔学園さんですと、広報専任の方が5名いらっしゃるということです。工業系高校の広報についても、人材の面が課題だと思いますので、教育庁の先生方ができるだけサポートする、事務職員ができる部分をやる等、役割の整理も含めてご検討いただきたいです。

川田部会長：ありがとうございました。先ほど丸岡先生からご意見いただいたこと、また以前中野先生からもご意見があったものですが、学習熱心な生徒が全て大学進学をめざしてしまい、就職する生徒の全体的なレベルが下がらないか、ということがあります。これについて、例えば大学進学専科を設置した高校で、設置する前に比べて就職する生徒のレベルといいますか、学力が少し落ちたとか、そういったことはないのでしょうか。

府教育庁：失礼します。特に生徒のレベルに関して、工学系大学進学専科ができたことで総合学科の生徒の平均的な成績が下がっている等は聞いておりません。工学系で学んでいるけれども就職をめざす生徒も出てきておりますし、総合学科で機械や電気等を深く学んだけれども進学選ぶという生徒も出てきておりますので、特にご心配いただいているようなことはないと思っております。

川田部会長：了解しました。ということは、大学進学専科ができたことで、ある程度新しい層が流入してきているということで良かったと思いますね。

その他、委員の方々から何かございますか。

本日も皆様から非常に貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。以上で本日、予定の議題は終了となりますが、その他ございませんでしょうか。

ないようですので本日はこれでこれにて終了したいと思います。委員の皆様、議事進行にご協力いただきまして本当にありがとうございました。事務局におかれましては本日の意見を踏まえて、次回の審議に向けた準備を進めていただくようお願いします。それでは事務局の方に進行をお返しいたします。

府教育庁：皆様、長時間にわたりご審議いただきまして、本当にありがとうございました。本日いただきましたご意見を踏まえまして、次回に向けて準備を進めてまいります。また次回につきましては、11月21日月曜日の10時開始を予定しております。開催場所につきましては、本日と同じく大阪府庁の別館6階の委員会議室でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、これをもちまして第5回大阪府学校教育審議会工業教育部会を閉会とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。